

都市再生整備計画 事後評価シート
高山中心地区

令和5年3月

群馬県高山村

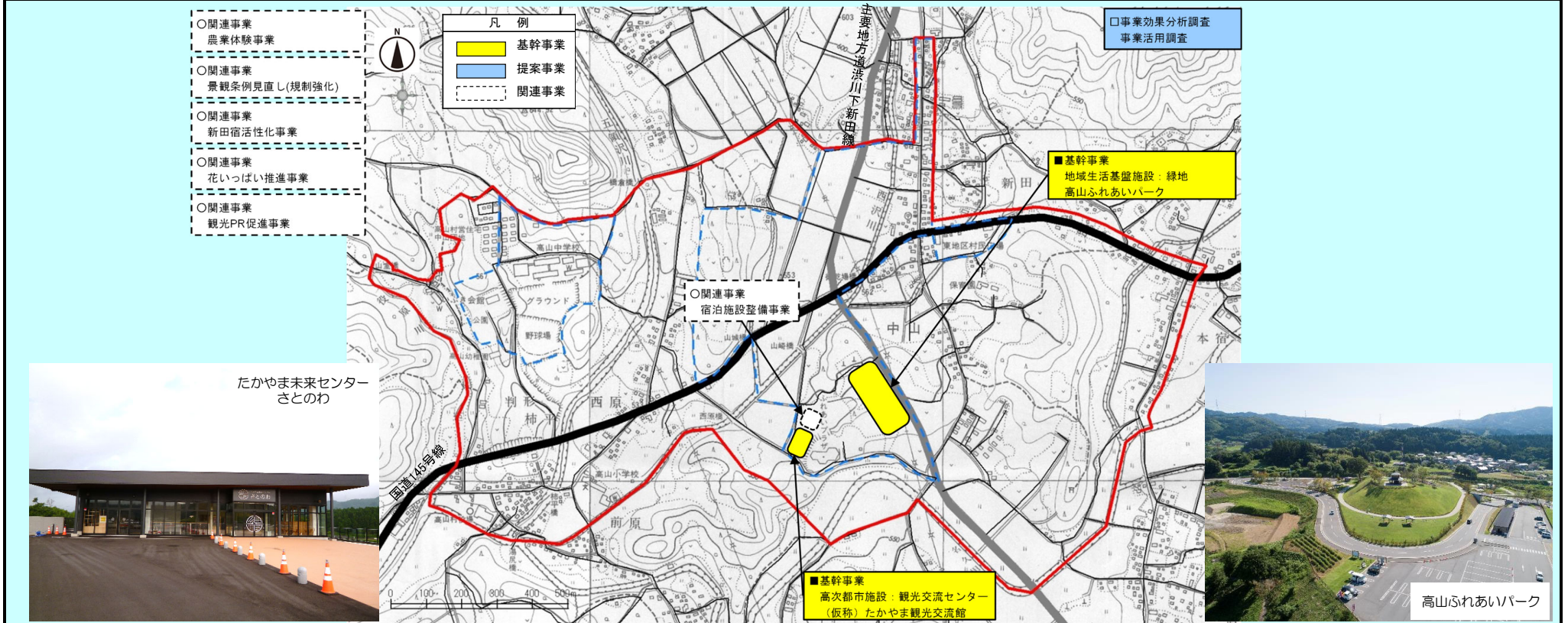
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県	市町村名	高山村	地区名	高山中心地区			面積	193 ha		
交付期間	平成28年度～32年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	465	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【公園】高山村スポーツ広場整備、【地域生活基盤施設】高山ふれあいパーク、【高次都市施設】(仮称)たかやま観光交流館								
		提案事業	事後評価事業								
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【公園】高山村スポーツ広場整備	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	なし	体育館を含む施設を無償により取得したことにより、これを小規模修繕で再利用することで、施設を新規に建築する必要がなくなった。			影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	なし								
		提案事業	なし								
交付期間の変更	当初	平成28年から令和2年	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
変更	平成28年から令和3年										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	むらの中心地来客数	人/年	217 H26	300 R3	278	H30	238	ありなし	「高山ふれあいパーク」の完成したことにより利用者は一定数おり、その利用者が道の駅を利用して、全体的に観光交流センター「さとのわ」の整備が間もないため、関連事業の宿泊施設整備事業による効果。新型コロナウイルスの感染拡大に伴いイベントを中止	
	指標2	滞在型都市交流者数	人/年	20 H26	300 R3	400	H30	420	ありなし		
	指標3	観光ボランティア案内回数	回/年	25 H26	50 R3	58	H30	0	ありなし		
指標4	中心地居住人数	人/年	1,220 H26	1,220 R3	1,220	H30	852	ありなし	中心地整備により活性化を図つたが、人口流出を抑えることができなかった。今後は新たに移住定住に関する事業との連携を検討		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	-									
	その他の数値指標2	-									
その他の数値指標3	-										
4) 定性的な効果発現状況	中心地整備と並行して行っていた「むらの中心地づくり」プロジェクトの取り組みによりイベント等の催し物の機運が高まった。										
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	住民基本台帳等によるモニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● ● ● ●			
	官民連携による取組	むらの中心地づくりプロジェクト(旧名:高山村道の駅公園等整備計画検討委員会)		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●			
	持続的なまちづくり体制の構築	観光交流センターの実施計画案の作成		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●			
<p>モニタリング: 毎年の統計により確認する。</p> <p>官民連携による取組: 平成30年度より、ワークショップを実施。今後も継続的に開催。</p> <p>持続的なまちづくり体制の構築: 観光交流センターの運営について、村民等との協働を検討していたが、指定管理者制度を活用することになったため予定を変更した。</p>											

様式2-2 地区の概要

高山中心地区地区(群馬県高山村) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標 地域資源を活用したむらの中心地づくり 小目標① 景観を生かした観光拠点の創出と住み続けたいむらづくり 小目標② 農村環境を生かした都市交流事業創出と地域活性化	むらの中心地来客数	単位:人/年	217	H26	300	R3	238	R4
	滞在型都市交流者数	単位:人/年	20	H26	300	R3	420	R4
	観光ボランティア案内回数	単位:回/年	25	H26	50	R3	0	R4
	中心地居住人数	単位:人/年	1,220	H26	1,220	R3	852	R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 「高山ふれあいパーク」及び「たかやま未来センター さとのわ」が整備されたことにより、これまでの既存ストックである道の駅(農産物直売所、ふれあいプラザ、レストラン)宿泊施設を含め中心地として集約された。 農業体験等、様々なイベント等を実施する際の活動拠点となる「たかやま未来センター さとのわ」が整備された。 子どもから高齢者が利用できる「高山ふれあいパーク」が整備された。3世代で利用することができ、住民間の交流機会の創出が図られている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 整備した施設について、地域住民等の利活用を推進する取組を行うとともに、利用しやすい環境、サービス提供に向けた維持管理を行う。 住民と来訪者等の交流する場・機会の創出を図る。また、官民連携により実施し、継続的な体制づくりにつなげる。 「たかやま未来センター さとのわ」を活用し、地域住民と来訪者等の交流促進を図る。 整備した施設を活用したイベントの開催、主要既存施設の維持管理を行う。 整備した施設及び既存施設を活用したイベント開催等による都市交流人口を増加し、村の魅力発信を行うことで移住定住に繋げる。